

昨年はご覧のような山行きでした。本年もぼちぼちこんなところかも。

*青柳 健二 11期

昨秋のベルクハイム行は参加できず残念でした。またの機会を楽しみにしています。



*小山 清 11期

OB会のお世話本当にご苦勞様です。昨年も剣岳を眺めに大日岳に数回通いました。

*山内 政司 16期

OB会行事に参加しようと思いがちなかなか。勝山からは決して遠くはないと思っているのですが、やはり腰が重いのでしょうか。今年こそは参加します。よろしくお願いします。

*松下 和隆 早苗 20期

11月に出張でピッツバーグ(米国)へ行ってきました。きれいな町ですがとても寒い。-7度は冬山を思わせるきびしさでした。

*中川 晃成 23期

ほとんど印刷しか仕事ができず申し訳ありません。印刷は何とか10日までには製本に出します。相変わらず仕事が遅くてすいません。

*辻村 善徳 25期

ひと昔?前とくらべめと山へ行く気力、体力共なくなってきたかなと思いながら、毎回の「やまざと」で舟田さんや他の皆さんの活躍ぶりに刺激されて山へ想いをはせています。今後共OB会の発展にも協力していきたいと思います。OB会の皆様もお元気で。今年の冬は槍へ行こうと思っています。



*小屋酒場の打ち合わせ

4月30日(水) ココス元町店 辰野 舟田 椿川

参加希望返信は21通+役員あたり

現役は5月31日から6月2日か新トレ

新主将は40期山崎君 小屋作業は秋を予定している

スポーツ振興課からは昨年同様30万円の補助金あり

辰野さんはお父さんの49日忌明けまで動けず

ダムのボートが修理中。期日は遅い方が使用可の確率が高い(結局5月20日修理済)。

秋の作業分も見込んで荷揚げをしておきたい。

登山道修復-前進基地を設けないと上部の整備は無理。

昨秋の作業では、現役がザックを担いでの下山が危ないと嫌がっていた。

秋の作業の下準備として、前進基地までの整備を行う。

大島、岡部の都合で日を決定する。

大島、辰野で、資材を検討。 岡部、椿川資材買い出しとダムへ搬入

椿川前日の金曜日午後にはボートで資材を運搬、現役に手伝いを要請

舟田、参加希望者に案内を発送

*その後

現役より、金曜午後は都合がつかないとの連絡あり。

椿川さん、金曜日に出張が入る。船頭は水・木がダメとのこと。

おまけに、6月2日から倉谷・土清水線は8時半から5時まで拡幅工事で通行止め。

ムム、頭抱える…

5月30日 山崎主将に、新トレの時ならみんなが集まるのだから、誰か都合がつかないのかきいて欲しいと依頼。30万円の補助金があるんだよと強調

6月1日 (日) 辰野・椿川資材購入、ダムまで搬入。

6月2日 金曜午後に4人が動けると電話あり。

6月3日 県土木事務所・道路維持管理課へ、金曜午後車を通してくれるよう連絡。

6月4日 田村さんの衣装箱届く。(ご当人は、5月31日来沢。)

ボートが出せるならこれも、滞在用食料も、他あれこれも運んで欲しいなあ…ダムからボッカとなるとかなりキツイ。もう…オバタリアンに徹することにする。

「こっちにある荷物も運んで下さい」

次には、現役の出す車というのは、わが家のすぐそばのアパート在住の2回生長谷川君のだとわかる。

6月5日 夜、積み込みに来てもらい、車賃と人夫賃を渡し、「OBのボッカ力が心配だから、できるだけ小屋近くまで運んでおいて」

(一番最初は、「資材」を船着き場の横に降ろすだけでもちかけた話でありました。しかし丁度上馬さんから、ヘルニアの手術の予後が悪くて欠席の返事をもらったこともあり、「無理せず」「楽しく」のために強引に出ることにしました。

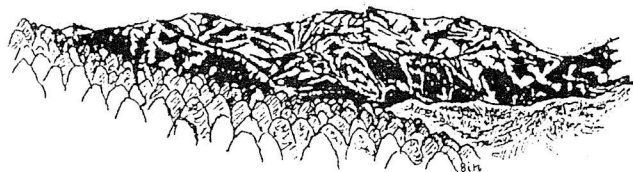
できるだけ多くのOBから会費を集め、現役にも流して、彼等の時間や体力を供給してもらい、円滑にOB会を運営する…が事務局長の仕事だと自覚。)

6月6日 主将から「時間がなくて、一部は船着き場から上がった道の横に残っていますが、後は小屋の下に運んであります」との電話。5時を過ぎていたので、通行止めも関係なかったそう。

6月7日 たしかに、小屋の下にきちんと積み上げられビニールをかけて置かれていました。残っていたのは、巻いた波板が2ロールだけ。現役がここまでやってくれたのかと、皆感謝感激。

作業してくれたのは、山崎茂雄君(3回生 主将)、高岩伸行君(3回生)

中野貴巳子さん(3回生)、長谷川夏樹君(2回生)



9 7 初夏山小屋酒場報告

13期 辰野 隆義

6月1日(日)

椿川君とホームセンター「ムサシ」で待ち合わせ。今回は、次回の便所建設もにらんでの資材調達を計画する。何せボートは秋には使えないのだから。

セメント20kg 6袋、トタン板10枚、その他金ゴテ、針金、他結構ボリュームのあるものとなった。そのまま車に積んで犀川ダムへ。建物の壁に寄せて積み上げ、シートを掛けておく。あとは舟田さんの連絡で、現役がボートで運べる所まで運んでくれるという。

6月7日(土)

工学部前に集合。いつものとおり一番近い私か最後となる。全員揃った所でダムへ出発。

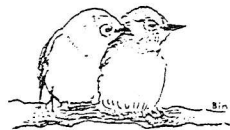
ダムには先日運び込んだ資材は跡形もなかった。さてどこまで運んでくれたか?これで今日の行動が決まるだろう。何せ社会的には壮年でも、体力的には老人に近いのだから。幸い、ほとんどの荷物はベルクハイムの上り口まで運んでいた。なんとOB思いの現役達よ!どうもありがとう。全員で一つずつベルクハイムまで運び上げる。

もっとも心配していたのは、前回完成させた水場が無事越冬しているかということであった。真先に上がった人の「ちゃんと出てる!」の叫び声に、ひとまず安心。我が目で確かめてみると、水量がかなり落ちている。缶ビールをバケツにつけて、すぐ点検にとりかかる。途中の水抜きバルブを開けてみるが、やはり出は悪い。取水場へ上がってみると、金網カゴは砂に埋まり、腐った枯葉がカゴの中に堆積している。ごみを取り除き、再び沢の中にセット。去年の水量に戻った。やはりこの給水法で正解であった。今後も問題ないだろう。

今日は小屋の土台の補修にとりかかる。石積みの土台部分は、建設当時のままで、長い間にモルタルがはがれ、ぐらつき出している石もある。苦闘の末運び上げた砂でモルタルをこねて団子作り。土台を水で濡らし、そこにモルタル団子を詰めていく。しばらくやっているうちにセメントがアルカリ性であることを思い知る。手がぬるぬるになってくるのだ。このまま続けると指紋がなくなるかも。気休めに軍手をしてやるがどうなるものやら。

体を動かしながら飲むビールはうまい。とにかく天気がよくて仕事もはかどるが、ビールも進む。なにせ10人にビールが80缶もある。町でなら缶ビール2本も飲めないが、今日は5本も空けた。アルコールにめっぽう弱い穂積までが同じくらい空けている。

高三郎組も戻ってきて夕食の準備。そして宴会。例によって13期生3人ダウン。田村大先輩はいつものとおり元気。平素の疲労の蓄積のため(週のうち3日が東京、4日が金沢の生活)、すぐ意識が途切れてしまい……。



6月8(日)

気がつくと朝。皆はもう起きて朝食の準備。高三郎組が早く出たいと早めの朝食になる。見送った後、作業開始。



まず流し場の土台となる石を河原より運び上げる。その数約50個。これを敷き並べ、塩ビパイプで排水口をつける。縁も平たい石を立てて並べモルタルで固定する。どうにか流し場らしき形となる。

カマドも、昔のものに石を乗せて、ナベ、ヤカンが上に置けるように調整し、モルタルで塗り固める。こういう調整が必要なものは吉本の独壇場。うまいものである。

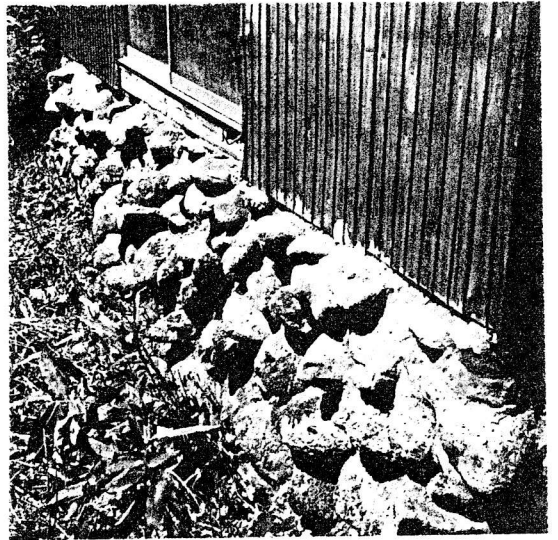
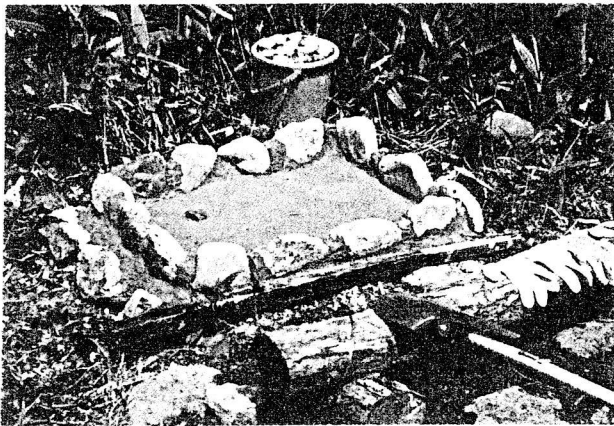
あとは砂のある分だけ山小屋の土台をさらに補強。2日間晴天が続いたため、モルタルの乾きも速い。

一段落したところへ高三郎組が戻ってきた。ご苦労様。さっそくビールをどうぞ。ともあれ喉が渴けばビールなのである。山小屋酒場ならではの極楽。

今年の初夏も予定どおり作業は完了した。小屋作業に携わって下さった現役の皆さん本当にありがとう。それから16期の北川君、清水君、田村大先輩、13期吉本君、吉田君、それに高三郎組の23期鳥越君、18期の椿川君、岡部君、そして我等が15期舟田さん。本当に皆さんお疲れ様でした。

秋もきっと山小屋酒場は開催されるものと思います。今度は便所を造りましょう。

皆さんの力を待っています。是非ともご参加下さい。ベルクハイムで飲むビールは最高です。



13期 吉田 穂積

山小屋作業から帰った翌日、腕、足、腹に、数十ヶ所赤いポツポツができて痒くなった。

何だろうと思っていた次の日、車の中に置き放しにしていたザックの上を0.5mm位の鮮紅色のダニらしきものが動いているのを発見。これがポツポツの原因なのかどうか、また、山小屋から連れ帰ったものかどうかは判らないが、とにかく駆除しなければと思い、車内を燻蒸することにした。

薬店では「自動車用の燻蒸剤がカー用品店にあるはずですよ」と親切にも教えてくれた。該当するものはあるにはあったが「ハエ、蚊、ノミ等の衛生害虫には効きません」との表示があり、やむなくアースレッドを車内で焚き、一晩置いた。使用上の注意には、パソコン、ワープロ等にはカバーをするようにとか、金属が変色する恐れがあるとか書いてあった。

何の対策もしないままにやったが、車内の機器(レーダー探知機、カセットデッキ等)には支障は起きなかった。

ポツポツは1週間程で治ったが、他の山小屋作業の方々は大丈夫だったでしょうか。

山小屋酒場に参加して

16期 清水 重仁

山小屋リフレッシュ会が何時から山小屋酒場になったか、個人的には定かではありませんが、昨年5月に続いて（秋は不参加）参加しました。

前日に滋賀の実家までたどりつき、当日4時半頃出発し、工学部前7時集合に、余裕をもって到着しました。それから3時間もたたないうちにBHにいたのだから、駒帰までバスを利用しダムまでも歩いてた当時においては、体内クロックも相当遅かったに違いありません。

さて、今回の参加者も昨年とほぼ同様のメンバーとなったようです。私はBH回りの補修作業に加わりました。何も意志表示しませんでした。が、元気組(?)が旧道整備に早々と出立していった結果です。缶ビール飲み放題のもとでの作業とも相まって、いや、40代半ばとしては当然なのか、かなりの重労働でした。そういう訳で、山小屋の夜の部も8時か9時頃には早くも閉店してしまったようでした。

まだまだやることもあるようですし、酒場を盛り上げるためにも、もう少し若い世代の参加を望みたいものです。（実際、田村さんと鳥越さんを除いては、私の期+-3年以内の人ばかりです。）

今後の参考になるかもしれませんので、今回実施したセメントミキシング方法を以下にまとめておきます。

1. 道具、材料

砂利、セメント、篩用角網（400*400程度）
小スコップ、攪拌用鍬、園芸用スコップ、水、
容器（600*500*200程度）

2. 手順

- (イ) 砂利を篩用角網にて篩にかける。木の根草の根多い。（詳細は辰野さんに聞いてください）
- (ロ) 篩後の砂を小スコップに普通盛りで約12杯容器に入れる。

- (ハ) セメントを小スコップにやや大盛で3杯容器に入れる。
- (ニ) 攪拌用鍬にてプレミキシングを行う。
- (ホ) ジョニ黒の瓶に約2-2.5本分の水を加える。
- (ヘ) 攪拌用鍬にて本ミキシングを行う。（詳細は吉本さんに聞いて下さい）
- (ト) 大体ミキシングできたら、園芸用スコップで容器の隅の未攪拌分を中心に仕上げミキシングをする。（詳細は吉田さんに聞いて下さい）
- (チ) 団子にして型崩れせず、異常にベチャベチャしていないことを確認。微調整後、使用する。

3. セメント塗布時の注意事項

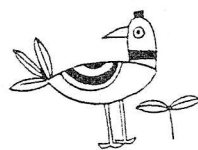
既存部分に塗る場合は、あらかじめ水を少し散水し、湿らせてからとすること。

追記 食事、食当について

メニューはふだん口にできないようなご馳走ばかりです。食当は舟田さんを中心に、岡部・椿川さんの両名で率先してやってもらえ、当方には声もかかりません。おっと、同期の北川さんも何か手伝っていましたね。

最後に、好天にも恵まれ幸いだったと思います。事務局、世話役の方、及び資材デポに協力いただいた現役の方に改めてお礼申し上げます。

（舟田の反省…いやあ、はるばる参加してもらって、つい登山道の方はきついかな？って、確かめるのを遠慮しちゃったんですよ。食当の方も、事前の打ち合わせをやってる気楽さで、つい内輪でテキパキをやってしまった…。参加した実感もてる運営を心がけます。改善されたか、懲りずに確かめに来て下さいね。）



埃を被った山靴を下駄箱の中から取り出し、簡単に身仕度を済ませ、慌ただしく玄関を出る。途中で16期北川さんをひらい、工学部前へ急いだ。

集まったのは、田村さん、辰野さんをはじめとする「いつもの顔」である。先程の北川さんの話では一山内にも、中野にも、清水（啓）にも連絡したんだけどなあ？であった。そういえば俺も、七間や、坂井や藤森くらいは誘わなければいけないな。（遠方の奴は無理かな？）

昨年より3週間遅れの小屋作業の始まりです（いつも、準備、連絡等苦労している舟田さんに感謝する）。犀川ダムは、苦労してホースや工具を小屋まで運んだ昨秋と違い、清々と水を湛えていた。今回は秋の作業の分も荷揚げしておくことになっているのだが、一体どの辺まで揚がったのだろう。セメント袋は以前（40kg）より軽くなったとはいえ25kgは重い。その心配は一掃した。塩ビの波板2ロールを除き、全て小屋下のテントサイトまで運んであった。（現役の連中に感謝！）

小屋に揚がると、水の音。昨秋引いたホースからはちゃんと水が出ています。さすが！

例年はない大量のカメムシの死体の歓迎を受け、小屋の内部を大掃除して昼食。

今回どこをどう整備するか…責任者としての宿題はもらっていたが、何分、お天気任せに、参加者数任せ…。天候には恵まれたがこの人数では、今秋の作業の下準備（補助金が今年もあり、現役は秋に登山道修復を行う予定）と、昨年整備した部分の荒れ具合の検討くらいであろう。

午後から、舟田、北川、椿川、鳥越と私の5名で登山道整備に出発。昨年と同様、旧道の枝払い、及び、ツルハシ、クワを使ったステップ切りを行う。登山道は昨年2度の作業の成果があり、登山道らしく見える。目につく邪魔そうな枝を払っていくうちに道巾も満足なものにな

るが、ほどほどにしつつ前進を心掛ける。それでも800m地点で予定の4時となり、鳥越君が日帰りしなければならないこともあり、引き返す。

上りではあまり気にならなかった傾斜も、下りでは「ザックを担いでではきついな」になる。明日はやはりロープを張ろう。今日も途中まではロープを担いできていたのだが、椿川と、ここここ、と確認しながら下りる。

小屋に戻ると技術者ぞろいの13期の人と16期清水（重）さんがカマドを仕上げていた。河原から砂を運び上げるのがたいへんだったとのこと。

舟田コック長の指示のもと夕食作り。焼肉用鉄板も、米や調味料類も、先の資材とともに現役に運んでもらったとのことで、またしても現役に感謝。

酒場も盛り上がり、アルコールのピッチも上昇。現役時代の思い出話が多いが、飲み食いの何百倍以上に口が動くのは何といっても田村さん。これに加え、今回は清水さんの話がとてもおもしろかった。清水さんの繊細な心情が伺える話であった（例の日記の話）。清水さんの風貌にはミスマッチのような気もするが（おっと、たいへん失礼）。ビールから日本酒に変えたあたりから（最近いつもそうなのだが）、酔いの回りが速く、酒場の話も覚えてはおらず、いつの間にシュラフに入ったのか、以後はまったく



記憶にありません。(夜中に小キジ打ちに出、こけてしばし行動不能でありました。その証拠の傷が、翌日の汗に疼いたのでありました。)

7日、朝食後、我が登山道整備班は早々に出発の用意。メンバーは田村、舟田、椿川と私。昨日の作業終了地点へと急ぐ。昨日の酒が残っているのか、上りの足が重い。とそこへ、登山者が来るではないか。一瞬我が目を疑ったが、紛れもない事実。それも一人、二人、三人と、続々上ってくるのにまたびっくり。この高三郎に上って来てくれる人がいるのだと思うと、今この道を整備している自分の姿に誇りと自信が沸いて来る。「さあやるぞ!!」と気合を入れる。最終的には14、5人の登山者に会った。時には「ご苦労さん」と声を掛けられたり、「頂上まではどれくらい」と尋ねられたり。後者には残念ながら、整備は分岐手前の鞍部までで後はかなり覚悟してとしか返事のしようがなかった。ここまでの急な登りに皆一様に舌を巻いている表情だった。

秋の作業のためのテントサイトをどこにするか?どちらにせよ836Pか951Pのあたりしかない。「836mでは低いか。」「いやあまり高いとテントをあげるのが辛い。」「やはり小屋から出入りするか?」「ここまでの往復に3-4時間は

かけているぞ。2日、3日となるとますますロスがかさむ」「上の方が圧倒的にブッシュが濃いもの。これまでみたいな進み方はできないよ」と、いろいろ考えたが、836P付近の平らな所をテント場と決める。(前方に951P前高が見え、眺めもよい)。作業の結果、3-4張のテン場を確保する。在りし日、高三郎と見越の鞍部にあるワンゲル平にテントを張り小屋作業をした記憶からは隔世の感があるが、これも時代。何年か先はワンゲル平であることを夢見て、ここをあとにする。

昨日の宿題、急坂に戻り、ロープを張る。先程登っていった人達に早速役立ってくれるか?しかし、今回のロープは30m。2箇所とちょっとでなくなる。次回はもっと用意してこなくてはと肝に銘じて下山する。

秋の小屋作業の下準備も出来、かなり満足出来る小屋作業であったと思う

さて、また舟田さんから、今秋の小屋作業についての宿題が来るはずですが。天候に恵まれ、人手にも恵まれるなら、考え甲斐があるというものですが…。どうしようかな…。

皆さんの協力をお願いします。



*実行記録

6月7日(土)

午前7時 工学部前集合

小屋作業隊 辰野 隆義(13期) 吉田 穂積(13期) 吉本 良治(13期)

清水 重仁(16期)

登山道補修隊 岡部 伸一(18期) 椿川 利弘(18期) 舟田 節子(15期)

北川 隆次(16期) 鳥越 伸博(23期)

小屋番 田村 昭夫(3期)

鳥越さんの車で工学部キャンパスに着いたら、もう重仁さんが来ていた。滋賀の実家を早朝4時に出てきたようだ。

「何?これだけ!先細りですか?」

「申し込みはあったんだけど…仕方ないわね。」大島さんには町内のアメリカシロヒトリ駆除作業が入ったし、山本君には就職試験が飛び込んだ。野田さんなんか不可の返信だったのを、「都合がついた」と連絡をくれて、それがまたダメになった。私にしても、浅の川の清掃行事が重なり、班長だったから班の割り当て分を全部先に掃除して、町内のうるさいバアサマには丁重にごまをすり、主人は拜み倒し、今朝さらに掃除し直して出てきた。こんなことをくどくど言わない皆にしてもそれぞれに無理や不義理を重ねている。会社や家庭や地域を背負っているのだから…仕方がないと言うしかない。それでも都合をつけてきた人達と、酒場を大いに楽しむことにしよう。

今年は少雪だったうえに、昨年より1ヶ月近く時期が遅いこともあって、ダムサイトの道はすでに夏草がボウボウ。ダムには30台近い車があふれていて、倉谷で何か?と思ったが釣り人達の手車だった。

昨年の田村さんの力作の架橋は…一部は使えたが一部は崩れていて、出島の手前のものにいたっては、最後尾を歩いていた田村さん御自身が一緒に落ちてしまった。ということは、前を歩いていた誰もその橋には足をかけなかったこ



ムササビ

とになる…(苦情のもっていきようがないというか)。善意の橋も、まともなものとなるとなかなか難しい。田村さんは早速の小屋番仕事とマークされたよう。

吊橋を渡ったところからきれいに草薺がしてあり、当の本人が作業中だったので聞いたら、酒多飲日記に出てくる山下さんだった。彼は倉谷を訪ねてくれる人達のために、ボランティアで道を開けていらっしゃるとのこと。続いて、川沿いの仮設小屋には羽場さん夫婦が山菜採りに来ていらした。スポーツ振興課の尾崎主査の姉夫婦である。しかとお世話になっている挨拶をしておく。

現役に頼んであった荷物は小屋の下にきちんと積みあげられてあった。おねだりがエスカレートするばかりで内心忸怩たる思いのあった私には、この誠実な仕事ぶりにジワッとくるものがあつた。ちょっとした一コマで元気になれる。この山小屋酒場も盛況とはいかないが、小屋酒場が続いているということが、多くのOBにとって元気の素になると信じている…。

上がっていくと水音がきこえた。「やった！」である。昨年の力作は機能していた。辰野さんが点検に行かれし頃の泥水の後、大量に水があふれだした。しばらく流した後、バルブで水量を押さえる。

小屋をあけたらギョッ。カメ虫のミイラの山に、白まだら…。現役時代も小屋開きに行ったけれど、こんなにひどくはなかった。昔は部員が冬近くまで出入りしていたからか？一週間前に現役が新トレで来ているはずだけれど、覗いたら身の毛がよだったんでは…。とにかく中の物を皆外へ出し、徹底的に掃除。白まだらは拭きとれるので、ローソクではなく鳥の糞？となったが、あとで上馬さんにヘビの仕業と教わった。

この時、得体の知れない越冬物は皆処分されることになった。昨年より古いものはない筈だが、田村さんに何かあっては困るのだ。田村さんは

「中を見るのが怖い」(?)

と言って清掃中は上がっておいでなかった。きれいになってから

「あれ〇〇は？□□は？」

「ハハ…もうないですよ」

昼食後、11時半から登山道修復隊は旧道をめざす。トリさんが

「ここからは16年ぶりですよ」

と言っていた。実際、倉谷や高三郎があるから世代の離れたOB同士でもつながってしまうのだ。白山も共通の思い出がある場所だが、何といても万人が登るし、国立公園を自分達の山とうそぶく訳にもいかない。小屋や高三郎の伝統は重荷でもあろうけれど、あっさり世代を乗り越えさせてくれる宝物でもある。重荷にするか、宝物にするか…。ともあれ現実の私は今、仲間と高三郎にとりついている。

(作業については岡部さんの記事を参照下さい)



せっかくの報酬の宴をあきらめてトリさんは帰宅。明日は町内のビーチバレーの試合があり、今晚はそのための練習が入っているそう(町内の貴重な若手人材だものね。その晩は名倉夫人の父上のお通夜の報も入ったそうで、やっぱりご縁がなかったとあきらめがついたそう。思えば学生時代は、本当に自由でしたね)。

さて「初夏」の酒場は山菜シーズンも過ぎてしまったので、焼肉とトリ鍋がメニュー。ボートのおかげで、鉄板やバーベキューセットも運んでもらえ、メニューのバリエーションも広げられそう。水場があるのが何ととっても便利。約1時間の歩行で、食材のみ持ち込みなら、皆のセカンドハウスとして楽しんでもらえそうに思う。

苛酷(というと、参加者が増えないかも)な労働と、おいしい食事とアルコールで、もう暇がくつき始める。コーヒーで持ち直し、よもやま話。高村さん達の追悼集のことで、清水さんの日記にびっくりしたことを言うと、彼は中2からずっと日記をつけていたのだそう。

「でも5年の時か、僕は6年で卒業したけれど、5年で川端が金沢から出ていった時に、書くのを止めました。」

(後日談--彼は編集長の苦勞に非常に同情してくれました。それで、その大事な日記から当時の学生気質を浮き彫りにしたものを数編まとめて、会報に連載することを約束してくれました。その後日記は燃やしてしまうのだそうです…奥様に読まれないうちに)。

労働不足(?)の田村さんがなかなか寝てくれなくて、話相手がいなくなったら今度はハーモニカを始められた。私達が昔話を聞けるのはありがたいが、それを同世代の仲間と酒の肴にできるものならどんなに田村さんも参加のし甲斐があることか…。違う世代との交流も楽しいけれど、何といても心寛げる仲間は同世代なのだから…何とかできたらと思いつつ、ハーモニカと倉谷の瀬音を子守歌に…。

6月8日

昨日炊き過ぎた御飯を温め直して朝食。今日は田村さんが上へ。北川さんが小屋作業に回る。清水さんが帰る前にと、記念写真を撮って作業隊は出発。私も飯炊き女に徹してみたいが、何といってもスポーツ振興課に報告してくるのは私、現役に作業状況を連絡するのも私となると、やっぱり現場に出たい。高三郎の連チャンをやるうちが華!と、カメラ、鋸、行動食、水をザックに詰め込む。

(このあたりも岡部さんが書いているので省略)

この日は15人近くが登ってきた。分岐手前でどうする?になるだろうな。といってこんなOB隊4人(さらに内訳は女1、還暦過ぎ1)でどれだけのことができる!椿川さんがはねかえった木で鼻の下を切ってしまった。^{生傷は}すぐ止まったものの一先日来、とても気になっているのだ。こんなボランティア作業に出てきて、怪我をしても、物好きの勝手にしょにしかないのだろうか。ただ「やろう、やろう」ではなく、傷害保険とか、何らかのフォローをきちんとやっていかなくては。

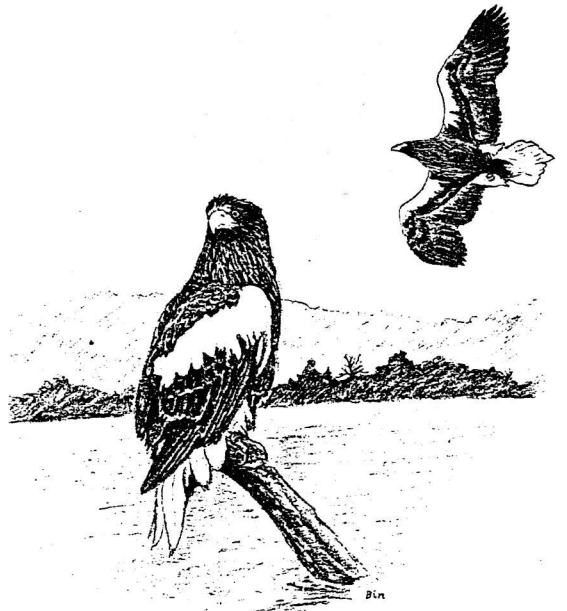
小屋に戻ると立派な流し台ができており、カマドも補修されていた。今回は絶対釜炊き栗飯の登場である。お屋は豊富な水を利用したの素麺。初夏にはグーのメニューだったが、これまで誰も小屋で素麺を食べた記憶がないという。これからいろんなメニューを楽しんでいくことにしよう。現役にもすべて小屋への寄贈品で自由に使って下さいと言ってある。小屋を利用するの思い出を持った人が、また小屋を大事にしてくれるようになるだろう。

辰野さんが便所構築のための採寸をしておいた。小屋の入口の壁を利用し、もたせかける形で便所にする。水を引っ張ってきて、使用後にバルブを開いて流す簡易水洗式。今の利用人数であれば、自然の浄化力任せでOKということだった。辰野さんも大島さんも水回りはプロ

中のプロ。下素人の現役ばかりでもやれた時代はそれはそれで良かったのだし、今は現役にパワーのなくなった分、プロの技術を持つOBが育っている。なるようになるもんだなあ。疎遠であればあきらめなければならないことが、資金で協力してくれるOB、技術で協力してくれるOB、時間と体力を提供してくれる現役と、連絡をとりあうことでやっていけるのだ。

明日戻るのか、いつ戻るのか定かではない田村さん用に小屋の内部を整頓し、施錠して小屋をあとにする。かつて、おそらくこれが最後と小屋を後にした日があった。さあ、また今度とあとにできるこんな日がきたことを快い疲労の中で感謝していた。

「またこいや。」38期正善君('95小屋作業CL)が残したドアへのメッセージは、BHの精神そのもののものだ。



オオワシ (ワシタカ科)